

## 第264回郵政民営化委員会後 委員長記者会見録

日時：令和5年8月25日（金）17:00～17:08

方法：Web会議

○司会 ただいまから、郵政民営化委員会山内委員長によりまず記者会見を行います。

本日も、ウェブ形式の会見とさせていただきます。恐縮でございますが、御発言されないときには、マイクをミュートにさせていただきますよう、御協力をお願いします。

会見の進め方ですが、冒頭に山内委員長に御発言いただき、その後、質疑応答を行います。

それでは、山内委員長、よろしくお願いたします。

○山内委員長 郵政民営化委員会委員長の山内でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の郵政民営化委員会の概要について、御説明申し上げたいと思います。

資料については、お配りしていると思います。

本日は、日本郵政グループから「日本郵政グループの2024年3月期第1四半期決算等について」。もう一つは、日本郵便株式会社から「日本郵便株式会社の業務区分別収支及び郵便事業の収支の状況等について」それぞれヒアリングを行ったところであります。

議事の内容については、配布資料を御確認いただければと思います。

それから、我々の委員会として、郵政民営化の進捗状況についての総合的な検証を進めていくわけでありますが、これについては、パブリックコメントを郵政民営化に関する意見募集ということで行ってまいりました。

昨日、8月24日に締切りになりました。

寄せられた意見が全体で25件ということでございまして、内訳は、事業者及び団体等から12件、個人の方から13件となっております。

この意見の詳細については、現在、事務局で取りまとめ作業を行っていただいております。後日、改めて委員会の場で報告を受ける予定になってございます。

それでは、今日の議事でございますが、議題として、先ほども言いましたが「日本郵政グループの2024年3月期第1四半期決算等について」と「日本郵便株式会社の業務区分別収支及び郵便事業の収支の状況等について」ということございまして、いろいろと細かい点についての御質問とかはあったのですが、重要なことだけ一つ皆さんにお知らせすると、決算がいろいろと出たわけでありまして、我々としても、来春に向けて、3年ごとの総合的な検証を進めることになっております。

今回は、クォーター別の収支ということで、日本郵便については年度であります。そういうことで短期的な御報告を受けたということでありまして、長期的なトレンドとして、各事業がどのような状況にあって、それに対して日本郵政を中心に、どのように対応して

いるのかについて、これはすぐに答えが出る話ではないのですが、その対応自体をどのようにこれからやっていくのかということを示していただきたいという意見、質問が生まれ、また、御承知のとおりで、中期経営計画もございしますが、この改定と申しますか、ローリングは御議論されているようであるので、その状況についても教えてもらいたいと質問したところであります。

これに対して、日本郵政側からの答えですが、まず、中期経営計画の改定については、現在作業中であるということでもあります。

2021年の策定当時からいろいろと経済環境が非常に変わってきて、物価や人件費も上昇トレンドにあるわけでありますが、結果的に、全般的に厳しい状況と言えらると思っております。ということで、計画からの乖離の原因を分析する、あるいは対応策を現在検討しているところであると。

これについては、出せるところは、随時この委員会でも出していきたいというお答えをいただいたところでございます。

以上が、今日のメインの議事となります。

何か質問がありましたら、お願いいたします。

○司会 山内委員長、ありがとうございました。

それでは、質問をお受けいたします。

御質問がある方は御発声、または挙手ボタンでお知らせください。

○山内委員長 郵湧新報さんですね。

○記者 郵湧新報の園田です。お世話になります。

会社の中計見直しと、3年ごとの見直しは、結果的に連動して動いていくような感じで、逆に会社側に聞かないといけないのかもしれないのですが、そのようになってくる可能性はありますか。

あと、今回の3年ごとの見直しで、委員長として、どの辺りに留意点というか、特に置いていきたいのか。

あと、何となくまとめてみないと分からないかもしれませんが、今回のパブコメでどのような意見が、特に自治体と郵便局との連携のあたりでどういう話が出たかとか、もし今の段階で教えていただけることがあったら、お願いいたします。

○山内委員長 まず、パブコメについては、私は内容を見ていませんし、今、事務局でまとめているところなので、申し訳ございませんが、お答えすることができないのです。

それから、中計のローリングと我々の3年検証の関係ですが、率直に言って、時間的なものも含めて、これがどういう形になるのかというのは、まだ見えていないのかなと思っております。

というのは、我々の3年検証は、基本的には年度内ぐらいのタイムスパンでやっていくのかなと思っておりますが、それに対して、中計の見直しはどのような形になるのかは、恐らく、日本郵政さん自体も、まだどういうタイムスケジュールでと決めているわけではないので

はないかと憶測するところですが、そういうことだと思います。

それから、一つの考え方で、我々が3年検証をやって、それを前提にしてといいますか、それを参考にしていただいて、中計のローリングを最終的に決めるというやり方もあるのかもしれませんが、そこまでのところも別に決まっているわけではないということであり  
ます。

ただ、中計のローリングをいろいろと御議論されているのであれば、それに対して、その中で、我々として情報の共有、あるいは問題点の共有とかができるところがあれば、いろいろと情報をいただいてやるのかなと思っております。

今回の3年検証でどういった点についてフォーカスしていくのかということですが、これは、我々としても委員会の中で結論が出ているわけではないということではありますが、個人的には、これから日本郵政のグループの中で、ゆうちょ、かんぽについて、株式の売却が進んでいく中で、その次のフェーズとして、どういう姿として日本郵政グループがあるのか。こんなことを中心に見ていくのかなと思っています。

以上でございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、以上で山内委員長の会見を終了とさせていただきます。

山内委員長、御出席の記者の方々、今日もありがとうございました。

○山内委員長 どうもありがとうございました。

以上